

KIMONO

友禅とその特徴

三つの代表的な友禅

手描き友禅は、元禄時代（1688～1704）に京都の扇絵師、宮崎友禅齋が創始したといわれる、色彩豊かで華やかな柄が特徴の染めの技法。

もち米と糠と塩を混ぜた糸目糊の技術により、隣り合った色が混じり合わないよう防染し、絵画のように繊細な模様を表現できるようになった。主な友禅は、京都の京友禅、東京の東京友禅、石川の加賀友禅である。

• Kyo



京友禅で絵が変える模様は、多色使いで、花鳥風月などを優美にデザインするものが多く、金銀箔や刺繍もよく用いられます。染匠というプロデューサーのもとで各分野ごとの専門職が分業制で仕上げられています。

• Ka Ga



石川県の金沢で作られる友禅染。色に特徴があり、加賀五彩という、藍、黄土、臙脂、緑、古代茶を基調色としています。京友禅では模様の内側から外側へぼかす事が多いのに対し、加賀友禅では模様の外側から内側に向かって濃い色にしていく「先ぼかし」や木の葉などの模様に墨色の点で描く、「虫喰い」の表現が独特。また、加賀友禅は緊迫、銀箔や刺繍などによる加飾をほとんど施しません。

• Edo



東京友禅は、渋く抑えた色調や、粋やモダンさのある意匠が特徴です。京都のように分業制をとらず、構想図案、下絵、友禅挿し、仕上げに至るまでの工程が、模様師とよばれる技術者を中心に、多くは一貫作業で行われています。

KIMONO

友禅とその特徴

京友禅と加賀友禅の詳細



桜の緑どりに
刺繍

ところどころ金箔



色調が落ち着
いている。

先ぼかし

虫喰い

参考資料 世界文化社 きもの文化検定公式教本①【五訂版】きもの基本／世界文化社 きもの文化検定公式教本②きものたのしみ／池田書店 大久保信子監修 着物の事典／1頁目の画像 着物の事典より 京友禅共同組合連合会、新宿区染色協議会（熊崎和人）、協同組合加賀染振興協会と記載あり